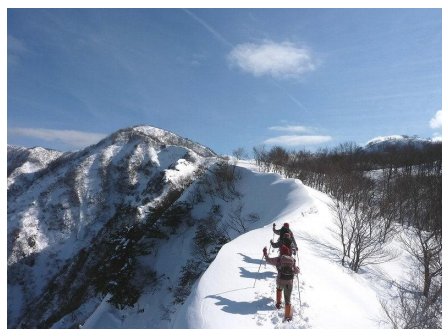


宝 蔵 山 山 行 記 録



山頂へ向かう尾根



山頂ランチ



栗ヶ岳を背に

目的地	宝蔵山	期 日	平成22年1月27日（水）・晴れ
山人	笠原正雄、高橋誠一、高橋かよ子、吉川	特 記	初めての山。快適、絶景の山行。

地 点 名	時 刻	記 事
七谷コミュニティセンター前	午前 8:30	ここで待ち合わせ。高橋さんの車に同乗し、4人で中大谷集落へ。集落のはずれの橋のたもとに路側駐車。山の様子が不明であるため、カンジキも持参した。
中大谷集落	9:05 発	雪の農道を壺足で進む。水路に沿う林道となり、杉林の途中で3人はカンジキ、俺は高橋さんの意見を聞いてスノーシューを履く。左上斜面に伐採業者が居た。
登山口標柱	9:33	水路の橋を渡って標柱。左の急傾斜地を上がる。夏道は斜面につけられているようだが、直登する。杉から落葉樹帯に変わり、緩やかな登りとなる。
山ノ神	10:05	林道を跨ぎ、先方に見える送電線鉄塔を目指す。再び杉の林に入り、コンクリート製の祠に手を合わせる。
送電線鉄塔		立ち休み。栗ヶ岳がよく見える。但し逆光である。ここで高橋さんのカンジキの紐が切れて、修理が終わるのを待つ。女性二人はどんどん前へ進んで行く。
小豆坂ピーク	11:25	ここに上がるにやや急登。登りきった所で休む。小豆坂とは、このあたりの土が小豆色をしているのだと聞く。上がりきると尾根が幾分痩せている。向かいに白山が見え、山頂避難小屋もしっかり見える。そして向かいのピークにカモンカが2頭立っている。ここから山頂まで2時間掛かるだろうという。殆どランチタイムが無くなるではないか。少しピッチを上げよう。
熊見場ピーク	12:00	短い急登。そして雪稜となる。小雪庇の上を進むが、やばい所は稜線から右に下りて進む。雪は軟らかく足元は容易に確保出来る。
前宝蔵トラバース		右手に顕著なピークがある。前宝蔵だ。夏道は左の沢の中に一度降りてから登っていると言う。下るのがもったいないと思い、雪を利用し斜面をヘツリながら前進する。トラバースを終え小高い丘に上る。ここから降り小さな起伏を繰り返す。
宝蔵山頂	1:15	山頂を前に見ながら、広い尾根を進む。傾斜が緩みしばらく進んで山頂。雪原が広がり、どこが三角点かは分からない。早速雪吹き溜まりの窪みを利用して穴を掘りランチテーブルを作る。作業時間約15分。風も殆ど無くなり、春の日差しを受けて快適であった。
下山開始	2:20	下山前に少し白山よりに行き、そこから川内の山々の絶景を楽しむ。矢筈、青里、五剣谷、銀太郎…と続いている。逆光だが、栗ヶ岳をバックに4人で記念写真。
小豆坂ピーク	3:55	振り返れば白山に日が当たり、そして左手の栗ヶ岳は西面が輝き始め、素晴らしい景色だ。足元の雪もやや緩んで来た。前宝蔵のトラバースは、今度は一気に夏道をたどるように下りた。
中大谷集落	4:30	農道では除雪作業が始まっていた。
七谷コミュニティセンター		100円風呂に入る。湯船も洗い場も広く10人程は行っても大丈夫だ。タオルも石鹸も無いが、この安さは尋常ではない。 加茂市内に移動し、高橋さんの家に泊めてもらい、一杯飲みながら楽しい晩を過ごさせてもらった。翌早朝帰宅。

この週も天気予報は良くなかった。しばらくは、山行は諦めモードであった。ところが、前夕の予報を見たら、なんと晴れの予報だ。どこか出掛けようと考えていたら、グッドタイミングで高橋さんから電話が入った。ためらいも無く即答した。「宝蔵の高橋」を自称しておられると聞き、全くの連レテッテ山行である。

さすがに彼が勧める山である。好天に恵まれたということもあるが、白山よりも景色は上だと思った。無雪期ならば2時間半程度の山らしい。今回は農林道歩きも加算されるが4時間少々掛かっている。さほどの急登も無く楽しめる山であった。

高橋夫妻は16日前にこの山に入っている。本日よりも深雪ラッセルで前宝蔵の手前で引き返している。従って、今山行の我々が、本年初めての登頂ではなかったであろうかとおっしゃっておられた。